



今、未来を見つめて

弘教寺住職 中山英昭

この度の改修事業に際しましては、厳しい経済状況にありながら、すでに多くの門信徒の皆様よりご寄付を戴き、お陰さまにて順調に改修工事が進められておりますこと御礼申し上げます。12月1日よりの当山報恩講法要の折には、門信徒の「憩いの部屋」としてお披露目できるかと思えます。

門信徒の「憩いの部屋」を造るきっかけは、趣意書でも触れましたが、65歳以上の高齢者が、3千万人を越えたこと。またその中で、独居世帯が、4百79万人に達している現状にあつて、寺が為すべきことは何か、寺の役割は何だろうかと自問した時、「門信徒の皆さんが気楽に集える場所の設置」という思いに至りました。若い頃、組内の寺院を訪ねると、いつも門徒さんが寺に居て、住職や坊守と歓談している姿を見て、あこがれたものでした。

つつじ寺だより9号にも書かせていただきましたが、飛騨の真宗寺院では、4百年間囲炉裏の火が消えたことがないという本願寺新報の特集記事に、シヨックを受けました。

飛騨の厳しい自然の中、お念仏のみ教えを心の依り処に、寺に集い語り合う姿を思い浮かべ、



第23号

発行所

〒370-0131
伊勢崎市境米岡二七九-二
浄土真宗本願寺派弘教寺
寺報編集部
電話 0二七0(七四)0五七三

うらやましい思いでした。お盆や彼岸で参拝しますと、一人暮らしの門徒さんの中には、「住職さんが来てくれた。話を聞いてもらおう。」次々とたまりにたまった話が始まります。もうこのへんと思うのですが、一向に収まりません。考えてみれば、一人暮らしで、一日一度も人と話が出来ないこともあるのですから、仕方ないことかも知れませんが。

完成間近の「憩いの部屋」は、そうした方々が集える場所として遠慮なく利用していただければと考えています。

昨年の東日本大震災以降、「絆」という言葉が、マスコミヤや日常の生活の中に見聞きするものが多くなりました。人と人とのつながり合い、支え合いという意味の言葉かと思えます。「人はパンのみに生きるにあらず」という言葉がありますように、ものが足りていればそれで良いというものではないと思えます。



改修工事中「憩いの部屋」

語り合ったり、助け合ったりという仲間や支えてくれる人々の存在が、どれだけ

大きな励ましになるかわかりません。

親鸞聖人はお念仏のみ教えに生きる方々を「御同朋」、「御同行」と呼ばれ、お念仏の仲間として共に支え合い、助け合って歩まれました。その流れをいただく「弘教寺」にとつて、まさに「憩いの部屋」は、それにふさわしい御同朋の集いの空間であると思えます。

「憩いの部屋」を心待ちにしている方々の中には、「お茶をたてて、皆さんで飲みたい。」という方や、「独身男子を中心に、男の料理教室をしたい。」という方など、今から夢が膨らんでいるようです。門信徒の皆さんもどうぞ「憩いの部屋」を利用していただくことを考えてみて下さい。

宮城県名取市の明観寺坊守の三浦慶子さんが、本願寺新報に寄せた文中に、座右の銘として、「あたたまって行きなさいよ 寒くはないかい 寂しくはないかい だったら あたたまって行きなさいよ お寺の本堂に座って あたたまって行きなさいよ お慈悲が燃えているよ 如来が喚んでいるよ 孤独な道を往くのなら 一緒に行動と喚んでいるよ 生きる力がないのなら 命をあげると喚んでいるよ あたたまって行きなさいよ 心の底からあたたまって行きなさいよ」の言葉を載せておられます。

心の依り処となる寺にいらしていただき、仲間作りをしてみませんか。一人で家にじっとしていないで、出かけてみませんか。

「憩いの部屋」の愛称を募集中

仏教壮年会15周年記念特集



長 佐藤吉一

◇ 記念事業を終えて ◇

10月4日、弘教寺仏教壮年会15周年記念式典が50数人参加のもと、盛大に行われました。当日の記念法話は5周年、10周年に引き続き多忙の中ご都合いただいた武蔵野大学教授、山崎龍明先生のお話でした。

まいりたいと思います。ご縁をいただいた皆様や会員各位のご協力によりすべての記念事業が無事終了しましたこと感謝申し上げます。

仏教壮年会は創立以来年6回の例会を持ち、「親鸞聖人のみ教えを学び会員相互の親睦をはかることを目的に歩んできました。壮年会の会員各自がなご一層の精進をして、婦人会と車の両輪のよう



◇ 15周年記念に寄せて ◇

弘教寺仏教壮年会15周年式典が盛大のうちに終了しましたこと、まことにおめでとございます。発会当時を思い出してみますと、私も定年後、弘教寺の行事に参加させていただくようになった頃、住職より当弘教寺の仏教壮年会を始めたいという話がありました。平成9年に例会が持たれ、その後第一回の総会にて若輩者であります但初代会長に就かせていただきました。

てまいりました。その結果各種サークルも誕生し、活動も活発になってきております。仏教壮年会、仏教婦人会が共に寺の原動力となつて今後も、末長く発展していくことを念じております。(初代会長 田中岩男)

仏教壮年会の例会も年6回ペースで開催され、例会後の食事は住職の取り計らいや、坊守の気配りのお陰でも盛り上がり、お互いの意思疎通が計られてまいりました。

◇ 山崎龍明先生の記念講演 ◇

仏教壮年会15周年を記念して、今回も武蔵野大学教授で法善寺前住職の山崎龍明先生をお招きして、『親鸞聖人のまなざしー救い、人間、社会をめざしてー』という講題で記念法話をいただきました。



人間というものを当時の親鸞さまがどのように、ご覧になられたか、或いは社会というものをどのようにご覧になられたかをお話し下さいました。

そして「親鸞さまは煩惱具足の私、火宅無常(いっどこで何が起こつても不思議ではないという事)の世界にあつては、人間の考える事、行う事、何一つとして間違いのないものは無いと言ひ、これが親鸞さまの念仏生活の結論でしたと話して下さいました。



山崎 先生

先生は、懇切丁寧に、しかも時々ユーモアを交え、ご聴聞の人達を引きつけるように話して下さいました。とても有意義なご法話でありました。(貝塚 しゆ)

仏壮・仏婦合同研修旅行報告

今回は、「長野別院・善光寺参拝と湯つたり信州路」での研修旅行でした。仏壮・仏婦合わせて34人。弘教寺を30日の早朝に出発で始まりました。最初の長野別院では前日の報恩講で飾られた本堂でお勤めの後、ご輪番の挨拶を受け長野別院の沿革についての説明がありました。次の東山魁夷館では画伯の自然への作品を鑑賞して、善光寺を参拝しました。楽しみの昼食は宿坊・兄部坊で寺庭(住職夫人)の貴重な精進料理を有り難くいただきました。食後は須坂の「蔵の街」を散策と、豪商の館「田中本家」を訪ね、その財力で得た豪華な品々に驚きました。最後の小布施町では名産のお土産を購入し宿泊の湯田中温泉に安らぎを求めて向かいました。

(一日目担当 橋本ま)



美しい女将に見送られ寺と仏壇の町そして一茶生誕の地飯山へ。到着後何人かに別れ自由行動。私達7人は5ヶ寺を回り、聖人の弟子宗諦の称念寺では坊守さんの説明を聞き念入りな見学。こけむした庭園の紅葉の美しさ、山門や鐘楼のすばらしさを堪能。展示試作館では個性ある雪隠「純金極楽寺トイレ」なるものを使用させて頂き、秀吉になつた気分?。仏壇通りでご住職に音色を確かめて頂きお輪を購入。

5百万円の高級仏壇の前で記念撮影をする。

戸隠中社、奥社も参拝出来ました。妙高・黒姫・飯綱各高原の真只中のすばらしい紅葉を右に左に歓声をあげ険しい山道をひた走り、沢山のお土産を両手に楽しい楽しい研修旅行が何事もなく無事終えられた事が何よりと思います。最後に、旅行のスケジュールを立案し、添乗員以上に皆様の安全を守って頂いた根岸様初め色々とお世話下さった方々有難うございました。

(二日目担当 岩内ひ)

群馬組連続研修会の修了報告

10月20日を最終日とした「群馬組第六期連続研修会」が無事修了しました。今回の研修は2年間12回にわたり、37人(弘教寺6人)が参加し実施されました。内容は「連研ノート」群馬組版にその都度テーマが提起され、班別に分かれて話し合いが進められました。『極楽浄土はどんなところ?』、『念仏とは何なの?』などの多くの問いがありました。話し合いは結論を求めていない為、気軽に地域の現状や自分の思いを話し合い和やかな雰囲気の中楽しく進められました。私にとって日頃深く考えることがないテーマであり、自分の生き方探しに大変参考になりました。また、気持ちが通じ合う多くの友が出来ました。最後に研修に参加させていただき、住職方やスタッフの皆さまにお礼申し上げます。

(柴崎か)

群馬組連続研修会は、昭和50年代半ばに第一期の研修会がスタート致しました。各寺3〜4人の門信徒が参加し、2ヶ年12回の研修を各寺で持ち回りで会処を移し実施しております。組連続研修会は「組連研」と呼ばれ、弘教寺からが研修を修了しております。

組連研は、本山での中央教修に受講し、門徒推進員となって、各寺で浄土真宗のみ教を伝える、まさに推進役となっていたため研修会です。また、門徒推進員にならなくても、修了された方が、各寺の教化活動を進めていく中心になっていただけることは、意義あることです。どなたでも研修に参加できますので、弘教寺の方へお問い合わせ下さい。(住職)

群真会親睦ゴルフに参加して

秋たけなわの10月26日に第33回群真会ゴルフコンペが桐生カントリーにて、県内各寺より30人が参加で開催され、弘教寺ゴルフ会からも12人が参加しました。ゴルフ日和のお天気に恵まれ、ティーグラウンド上立っておられる皆さんの姿は、まさにシングルプレーヤーそのものでした。熱戦が終わり、弘教寺所属の徳丸さんが優勝の栄冠を手に入れました。



懇親会では、あちらのテーブルからはスライスの話に花が咲き、こちらの席からはフック満開の話が咲き乱れ、一層の親睦の絆が深まりました。誠に楽しい秋の一日でした。(石博た)

紙芝居「ミテゴザル」再上演!



子どもの集い夏・第18回

紙芝居は、ご門徒の田中鐵郎さんにお願ひしました。田中さんは、これまでに10作もの仏教説話の大型紙芝居を制作、集いごとに坊守が上演してきました。7年前には、17歳の少年飛行兵だった時の体験を紙芝居にして子どもたちに見せてくれました。それが、「ミテゴザル」で、今回再上演となりました。

中島飛行機工場への学徒動員の時、志願して熊

本の飛行学校に入隊。特攻隊魂を叩き込まれ出陣が近づいた時、父母の写真の代わりに三つ折りご本尊が送られてきて、「お前の親様だぞ、仏様はいつもおそばで『ミテゴザル』と書き添えてありました。奇襲攻撃での戦友の死、広島の惨状を目の当たりにした少年飛行兵が、今日まで生かされている命の尊さ有難さを感じつつ、二度と戦争はいけないと結びました。真剣に見入る46人の子も達にとつて貴重な時間でした。

※「ミテゴザル」は、11月21日(水) 仏教婦人会11月例会で上演予定。当日、本願寺新報社が取材に来ます。(坊守)

◆この人◆ 栗原由夫さん・伊勢崎市

元総代長、栗原由夫さんに平成24年度秋の叙勲により瑞宝雙光章が授与されました。弘教寺門信徒にとつて名誉なことでもあります。栗原さんは、昭和18年綿打小学校教員から始まり、間もなく現役召集を受け、中国に渡りました。終戦後昭和21年5月に復員し、同年11月木崎小に復職。その後、綿打小を経て40歳で世良田小教頭に、45歳で生品小校長となり、世良田小、笠懸東小、尾島中と15年勤め退職。退職後、町の教育委員を3期12年、内教育委員長7年を経て退任されました。

「在職中、良い上司・先輩に恵まれ、『悩みのない人間は成長も進歩もない』との言葉をいただき座右の銘とした。世良田小校長時代、校舎改築に際し、模型を造り日当たりの良い教室設計に苦心した。また、6年生児童を交替で校長室へ招いて昼食を一緒にしながらいろいろな話をしてきた。おかげで、子供達も穏やかな面が見られ楽しい学校ができたような気がする。」と懐かしい思い出に紅潮した顔で語ってくれました。(玉田た)



瑞宝雙光章を授与された 栗原由夫さん

◆行事予定◆ (平成24年12月~平成25年3月)

月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
12月	1・2日	合同報恩講・報恩講		
	6日	婦人会忘年会	15日	教区仏教壮年会理事会
	16日	壮年会例会・忘年会		
	20日	婦人会例会		
	23日	子どもの集い		
1月	1日	元旦会		
	18日	婦人会新年会	9~16日	本山御正忌報恩講
	20日	役員新年会		
2月	3日	仏社会例会(第5回)		
	9日	子どもの集い	12日	組レ・ハー(若宮苑涅槃法要)
	18日	婦人会例会	23~24日	教区仏壯結成記念日研修
3月			9日	教区仏教壮年会理事会
	28日	婦人会例会	17~23日	春彼岸

※編集後記※

この夏の猛暑は9月に入っても続き、私達だけでなく草木にも影響したようです。秋を告げるあぜ道の真赤な「彼岸花」、通学路に甘い香りを届ける「金木犀」が例年よりも遅いと感じられました。暑さ・寒さを私達は科学の力を借りてコントロールするが、草木はじつと我慢して直接に感じとり、その開花はその折々の気候の変化を知らせてくれております。それに気付かず早い遅いのと思う私であります。(橋本ま)